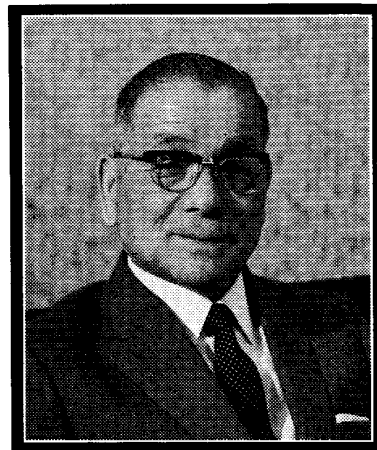


元 会 長 名誉会員

武藤 清先生のご逝去をいたむ



本学会の元会長で、名誉会員の武藤 清先生が、平成元年3月12日急性心不全のため逝去されました。享年86歳でした。

先生は大正14年、東京帝国大学工学部建築学科をご卒業、東京帝国大学講師・助教授を経て、昭和10年同大学教授となられ、建築構造学の講座を担当されて、後進の育成に当たられるとともに、ご生涯を通じて、わが国のみならず世界における耐震構造学の発展に、大きく寄与されましたことは、広く知られているところであります。この間、昭和35年3月から2年間は、工学部長に就任され、昭和38年3月定年によりご退官、東京大学名誉教授の称号を受けられました。

その後、同年7月から鹿島建設株式会社代表取締役副社長に就任されるとともに、昭和44年には株式会社武藤構造力学研究所を創設され、代表取締役所長として、引き続き耐震構造学の研究に専念されました。この間、国内では日本学術会議会員・日本建築学会会長・日本土質工学会会長・日本工学会会長などを歴任され、わが国の学術発展に尽力されるとともに、国際的にも国際地震工学会の初代会長など、広く世界における学術の進展に寄与されました。

先生の60余年に及ぶ終始一貫したご研究によって、世界の最高水準をいく耐震計算法を確立され、動的解析法に基づく超高層建築物設計の基礎を築かれたばかりでなく、これを地震国であるわが国において自ら実地に応用され、今日の超高層時代を拓かれたことも、またよく知られているところであり、原子力施設の耐震設計についても、わが国独自の高度な手法を創始されました。このようなご業績に対して、日本建築学会大賞・日本学士員恩賜賞を始め、数々の受賞に輝かれたことは申すまでもありませんが、昭和52年には講書始の儀において御進講の榮に浴され、昭和58年には文化勲章を受章されました。

先生が本学会会長に就任されたのは、昭和31年5月であり、4代目の会長であります。当時学会はいまだ創成の時代でありましたが、絶えず構造設計における土質工学の重要性を力説され、法人化の手続きなどで悩まれながらも、優れた識見と人格をもって、学会の基礎固めに尽力されましたことに、われわれ会員一同は深く感謝しなければなりません。

私自身は、学生として直接先生の講義を受けたことはありませんが、公私ともども常に親しくご薫陶とご指導を頂き、生涯の恩師として師事して参りました。俗な言葉でいえば、たいへん可愛がって戴いたようで、海外の出張や震災地の調査などによく誘って戴き、たびたびお供できたことは、嬉しくまた懐かしい思い出であります。

この報告を書くに当たり、改めて限らない悲しさと寂しさを覚えますが、いまは先生の温容を偲びつつ、謹んでご冥福をお祈りするばかりであります。

(東京大学名誉教授・清水建設㈱副社長 大崎順彦)

社団法人 土質工学会